

---

領域名：基礎看護

報告者：栗原 幸子

---

教育及び実践の課題

---

近年、技術教育において、シミュレーション教育、e-learning を用いた反転授業など、学習者を主体とした様々な教授法が開発されてきている。基礎看護領域では、1年次から3学年にわたり、必修科目 生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて看護基本技術の演習を担当している。いずれの科目もグループ学習を主軸としたシステムによる教授法で授業展開しているところであるが、より看護学生にとって効果的な看護技術の教授法へと洗練していくことが課題である。

---

活用した論文の概要

---

Susan らは、最も効果的な看護技術の教授法を検討するために、初学者の看護学生への技術教育において、講義やデモンストレーションといった伝統的な教授法と、高機能シミュレーターを用いた演習や CD-ROM・Web 配信を用いた自己学習を取り入れた新しい教授法とを比較研究している 13 件の文献について、文献レビューを行った。

結果として、遠隔操作双方向資料へのアクセスを提供する教授法は、他のものよりもかなり効果的であることが明らかとなった。また、伝統的な講義による教授法とデモンストレーションを組み合わせ、さらにコンピューターを使用する方法が、いずれか単独の教授法よりも効果的であることを示唆していた。

---

教育及び実践への活用

---

研究結果では、遠隔操作双方向資料へのアクセスを提供する教授法が効果的であることが示されていた。ここから、技術教育の教授法として、いつでもどこでも学生がアクセスできる「遠隔操作」ができること、一方向的な資料の提示だけでなく学生の疑問点を教員が追記できる「双方向」であることが効果的な方法として考えられた。これをふまえて、現在、学生達へ課題として課している「Skill note」の活用について再考した。Skill note は、各技術の目的、アセスメント、行為のポイントと根拠、患者体験で感じたことをまとめ、担当教員へ提出してチェックを受けるものである。この課題は、学生が学内演習前に看護技術をイメージすることと、実施後に自己の修得状況を振り返ることをねらいとしている。本論文の結果を受けて、学生と教員との双方向でやり取りをするためのツールという観点から検討し、Skill note から学生が修得上困難と感じていることや疑問に思っていることを担当教員が意識的に読み取り、コメントを返していった。この学生-教員間の Skill note のやり取りを通して、学生が技術の行為のポイントを押さえた記述ができるようになったり、実施後の評価を患者の立場から説明できるようになったり、看護技術修得において効果的な学習ツールであることが確認できた。また、演習室を常に開放し、いつでも学生が教材ビデオを鑑賞したり、ベッドを用いて練習したりできるような環境をととのえておくことの意義についても確認できた。今後は、「どこでも」自己学習ができるような方法について検討していきたい。

---

参考文献

---

Susan McNETT. (2012). Teaching nursing psychomotor skills in a Fundamentals Laboratory: A Literature Review, Nursing Education Perspectives, 33(5), 328-333.

---